

研究機関名：小樽市立病院

承認番号	
課題名	通常型膵癌および IPMC に対する膵切除症例における術前骨密度低下およびサルコペニアの意義
研究期間	西暦日（実施許可日） ～ 2028 年 3 月 31 日
研究の対象	2020年1月から2026年3月までの間に小樽市立病院 外科に通院または入院し、膵切除を受けたもの。
利用する試料・情報の種類	☒ 診療情報（詳細：年齢、性別、画像所見、血液検査結果、手術情報、病理検査結果 等） ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐ 血液 ☐ その他（ ）
試料・情報の管理について責任を有する者	小樽市立病院 院長 越前谷 勇人
研究の意義、目的	膵癌患者では、栄養障害、慢性炎症、身体的消耗などを背景に骨密度低下（Low bone density: LBD）を認めることがあり、術後生存や治療継続との関連が報告されています。また、膵切除後には膵外分泌機能低下や吸収障害により、骨密度低下が進行する可能性があります。一方、これまでの研究は主に通常型膵癌を対象としており、膵管内乳頭粘液性腺癌（IPMC）を含む膵切除症例における術前 LBD の意義は十分に明らかではありません。本研究では、通常型膵癌および IPMC に対する膵切除症例を対象に、術前 CT から評価した LBD と術後短期成績・長期予後との関連を検討し、術前リスク評価および周術期管理の新たな指標となり得るかを明らかにします。筋肉量との関係も同時に評価します。
研究の方法	期間中に当院で施行した膵癌または IPMC に対する膵切除症例の採血結果や病理結果などの臨床病理学的背景を術前 CT 検査を用いた骨密度や筋肉量を指標にしてそれぞれ 2 群に分けて比較し、さらにその生存、再発およびその期間を比較します。
その他	特記事項なし
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：研究責任者

	所在地；小樽市若松1丁目1番1号 電話番号；0134-25-1211 研究責任者；小樽市立病院 外科 島田 慎吾
--	--